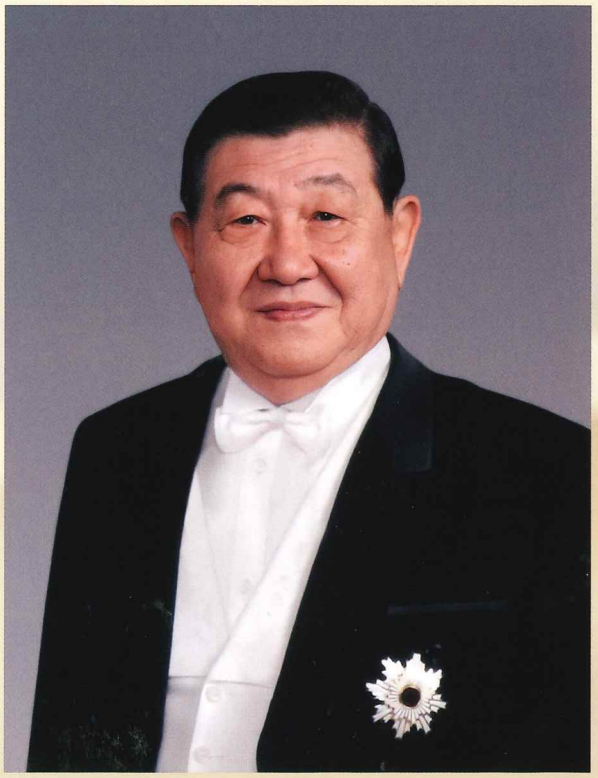
元農林水産大臣・元環境大臣

故 若林 正俊 儀

自由民主党・若林家

合同葬儀



正風院殿徳峰俊能大居士

令和5年11月11日 永眠（89歳）

In Memoriam

Masatoshi Wakabayashi

1934-2023

ご挨拶

11月11日1時2分。最大のライバルであり、目標としていた父 若林正俊が89年の生涯を閉じて旅立ちました。

昭和9年生まれ。戦中戦後の激動の時代に長野から東京の学校へ。東大卒業後は、農林省に入省。以来、生涯をかけて日本農政のため一途に取り組んできた父。中学高校時代のあだ名は『やけちゃん』。由来は、なんでも一生懸命だそうです。父らしいあだ名だと思いました。昭和58年 長野一区から故倉石忠雄先生の後継者として衆議院議員総選挙に立候補し、政治家としての歩みを進める事になりました。その時に掲げたスローガンは『誇りあるふる里づくり、国づくり』『陸の孤島からの脱出』でした。
2度の落選を経験する等、決して順風満帆とは言えない茨の道でした。環境大臣、そして農林水産大臣を兼務も含め、4度の認証を受けて国のために身を捧げてきました。平成24年、第46回衆議院議員総選挙で自民党が野党に転落。その後の内閣総理大臣指名選挙では「若林正俊の名前を書くこと自体に、大きな意味があるとは思わない。自民党の結束のためだ。」と、両院議員総会長として自民党の総理候補となって指名選挙に挑みました。

子供の頃、頑固で仕事一途な父とは話しづらいと思っていましたが、幾多の経験から円熟味を帯び、人の話をよく聞き、懐深く包み込むようになったと思います。冷静に大局を見て決断する事が、政治家として大事だと言われたことがありました。器用な人ではありませんでしたが、時代を見通す目をブレずに持ち、信念を貫き通した政治家人生だったと思います。
『一志一道』『農は国の礎なり』好んで書いた字に父の思いが込められています。
父の足跡に敬意と感謝を持ち、遺志を引き継いで精進して参ります。

お世話になりました皆様へ 生前のご厚情に深く感謝申し上げます。今後とも、残されました我々遺族にも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年12月19日

喪 主 若林 健太

略 歴

昭和 9年 7月 4日	誕生
昭和32年 3月31日	東京大学法学部私法学科 卒業
昭和32年 4月 1日	農林省 入省 昭和58年1月16日に退官するまでの間、食品流通局市場課長、農林経済局金融課長、構造改善局農政課長、国土庁長官官房総務課長等を歴任。
昭和58年12月18日	第37回衆議院議員総選挙 初当選
平成元年 6月 3日	総務政務次官（宇野内閣）
平成10年 7月12日	第18回参議院議員選挙 初当選
平成11年 8月13日	参議院農林水産委員長
平成12年12月 6日	大蔵総括政務次官（第二次森改造内閣）
平成13年 1月 6日	財務副大臣（第二次森改造内閣）
平成13年 5月 1日	財務副大臣（第一次小泉内閣）
平成16年 7月30日	参議院政治倫理審査会長
平成18年 9月26日	環境大臣（第一次安倍内閣）
平成19年 5月28日	農林水産大臣（第一次安倍内閣）
平成19年 8月 1日	農林水産大臣（第一次安倍内閣）
平成19年 9月 4日	農林水産大臣（第一次安倍改造内閣）
平成19年 9月26日	農林水産大臣（福田内閣）
平成21年 3月24日	自由民主党両院議員総会長
平成23年 4月29日	旭日大綬章 受章
令和 5年11月11日	89歳にて永眠
令和 5年12月 5日	従三位 叙位

式次第

一、開　　式

一、式　　辞

葬儀委員長
自由民主党政務調査会長
萩生田 光一

農林水産大臣
宮下 一郎

一、弔　　辞

健誠会若林けんた後援会長
太田 哲郎

一、弔電奉読

一、喪主挨拶

若林 健太

一、導師入場

一、読　　経

一、指名献花

一、導師退場

一、一般献花

一、閉　　式

葬儀委員長
萩生田 光一
宮下 一郎

葬儀副委員長
神農 佳人
加藤 久雄
太田 哲郎
春日 英廣
北村 正博

喪主
若林 健太